笑顔の松山が好きやけん

～笑顔を守り・広げ・つなげる人たち～

自分にできることを…と防災士に

僕の祖父と父は防災士で、その姿を幼い頃から見ていました。特に地域の人のために活動している様子に尊敬の気持ちを持つようになり、「僕にできることはないか」と考えて、2016年、9歳の時に史上最年少で防災士になりました。僕が住んでいる高浜地区は海と山に囲まれているため、主に地震による津波のことを心配していました。しかし、西日本豪雨では土砂災害が起こってしまい、火災や地震だけではなく、大雨への備えも重要だと感じました。これからも地区の防災士勉強会や防災訓練に積極的に参加し、友だちにも防災の知識を伝えていきたいです。

平成30年西日本豪雨の時は地元の高浜地区の防災士として活動しました

防災士
二宮 快地さん

生活に安らぎのあるまち 安全・安心

”ひとづくり”に重点を置き地域防災力を強化

消防団の充実強化

地域防災の中核となる消防団は、全国的に団員数が減少傾向にある中で、松山市の団員数は12年連続で増加しています。

松山市では、市民全体で消防団を応援する「まつやま・だん団プロジェクト」を進め、多様な人材が活躍できる環境を整備してきました。その結果、基本団員に加え、全国トップの団員数を誇る女性消防団員、将来の地域防災を担う大学生消防団員、地域分団の活動人員を補完する事業所消防団員など、さまざまな人が消防団として地域を支えてくれています。

自主防災の充実

住民主体で地域防災力を強化するため結成する「自主防災組織」は、結成率100パーセントを達成しており、防災訓練や研修会などで住民の防災意識を高めています。また、地域の防災リーダーとして重要な役割を担う防災士の養成を支援し、防災士の数は全国の市区町村でトップです。その結果、自主防災組織にはもちろん、市立の保育所・幼稚園、小中学校や児童クラブ、福祉避難所、災害協定事業所などにも防災士を配置しています。

全世代型防災リーダーの育成

東京大学、愛媛大学と連携し、市内大学や高等学校、市教育委員会、自主防災組織などの関係者を委員に加えた「松山市防災教育推進協議会」を設立しました。また、市内の小中学生、高校生で「ジュニア防災リーダークラブ」を結成し、防災キャンプや防災まち歩きで、若い世代の防災リーダーを育成するなど、全ての世代に防災教育を広げ、小学生から高齢者まで切れ目なく防災リーダーを育成しています。

松山市防災教育推進協議会を設立

「いつか」に備えて地震に強いまちづくり

耐震化の推進

近い将来、発生が危惧される南海トラフ巨大地震などの災害に備えて、災害時に指定避難所となる小中学校の校舎や幼稚園、公民館の耐震改修を計画的に進めています（うち小中学校は平成28年度、幼稚園は平成29年度で完了）。また、消防団ポンプ蔵置所（消防団車両などの格納所）や災害時に給水基地となる配水池、上・下水道施設を耐震化、木造住宅の耐震診断・耐震改修や、危険なブロック塀の撤去・改修にかかる費用を一部補助するなど災害に強いまちづくりを目指します。

医療機関に隣接し救命率の向上へ

生活に安らぎのあるまち

救急ワークステーション

救命率をさらに高めるため、平成27年10月、救急業務に携わる職員の教育拠点になる「救急ワークステーション」の運用を開始しました。医師が早期に重篤傷病者へ治療を開始できるようになるほか、救急救命士などの教育体制が充実されました。救急業務をしながら医療機関で研修を受ける「常駐型」は、中四国では初の体制です。

中島地区ヘリポート運用開始

島しょ部の消防、救急体制をさらに充実するため、中島地区の天谷・中島南小学校跡の2カ所にヘリポートを整備。アスファルトなどで舗装し、離着陸時の散水が不要になり、より安全で迅速に救急・救助活動ができるようになりました。

中島地区ヘリポートの運用を開始